

## No.5 わらいばなし

### 一休さん はしをわたる

とんちがじょうずな一休さんのおはなし。  
お金持ちの家の人が、一休さんをこまらせようと思いました。  
このはしをわたってはいけないという看板を橋の前にたてました。  
そして、一休さんは、どうするかためしてみました。  
でも一休さんは、平気なかおで、わたりました。これを見ていたお金持ち。

**お金持ち「このはしをわたってはいけない、**

**とかいてあるぞ！ なぜ、わたったのかね」**

**一休さん「はい、わたしは、はしをわたってはいません。**

**わたしは、真ん中をわたりました」**



一休さんは、室町時代、京都に住んでいました。おさないころから、頭がやわらかく、年上の人、えらい人をこまらせることがじょうずでした。

このお話は、何がおもしろいのか、わかりましたか。

おしょうさんは、「この橋をわたってはいけない」のつもりで書いたのに、一休さんは、「はし」のことを、「橋」ではなく、「端（はし）、はじっこ、すみのほう」の意味と考えたのです。

そして、「端（はし）ではなく真ん中をどうどうと歩いてわたったよ」といったのでした。

さすが、とんちのきく一休さんでした。

一休さんには、このほかにもたくさんのとんちばなしがあります。よんでみるといいですね。



ほんとうはこんな顔だった？

\* とんち: その場のようすやふんいきに合わせてすぐに知恵がでてくること

2020. 4. 28